

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 068	提案機関名 畜産課
要望問題名 ペットフード等で活用されている消臭資材の畜産への応用について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 畜産技術センターでは、これまでの研究成果で悪臭防止法22物質以外の豚ふん由来の悪臭成分名を明らかにしている。畜産経営の悪臭低減を実現するには、その臭気の特徴を捉えて脱臭及び抑臭する技術を適用する必要がある。 一方、オーラルケア商品やペットフードは、アンモニアと消臭が難しい硫黄化合物を同時に分解する資材が配合され、消臭に活用されている。また資材は、緑茶ポリフェノール等植物由来であることや消臭メカニズムが明らかことから、畜産分野での応用が期待できる資材と考えられる。 そこでポリフェノールを含有した資材を用いてアンモニア及び硫黄化合物以外の悪臭成分、特に豚ふん由来の悪臭成分の低減効果等基礎的な試験を実施し、畜産臭気への適用が可能と判断される場合には、畜舎への資材散布等の実証試験への展開を要望します。また資材が飼料安全法上の届出等行われている場合には、資材給与によるふんからの悪臭発生低減効果も確認するため、家畜を用いた給与試験への応用も合わせて要望します。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画研究課
対応区分	①実施 ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	ポリフェノールを含有する消臭資材については、人またはペット向けの商品が開発されており、畜産への応用が期待されるところです。しかし畜産では、人やペットに比べ大量の排せつ物が発生すること、処理施設が大きいこと、また、通常コストがかけられない部門であることなどから、そのままの利用は難しいと考えられます。 なお、29年度において、同様の消臭資材の家畜ふんの悪臭成分に対しての低減効果等について事前調査を行い、効果が認められた場合はその後の展開を検討してまいります。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			